

---

# ワールドチェンジ！

わびすけ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ワールドチェンジ！

### 【Nコード】

N0362BA

### 【作者名】

わびすけ

### 【あらすじ】

主人公、斎藤さいとう 静夜しずよはひょんなことから異世界「イルヴァンシエール」に迷いこんでしまう。最初は異世界に戸惑う静夜だったが徐々に地球では埋もれていた才能を開花させていく。そして静夜は旅の途中、ある少女に出会う……………。



迷いこんだ先はファンタジー！？

俺の名前は斎藤 静夜。普通の高校2年生だ（ドヤッ）

今、俺がいる場所は異世界「イルヴァンシエル」

まるでファンタジーを体現したような世界だ。勿論、剣も魔法もあるし、機械文明だって地球より進んでる。

え？じゃあなんでただの高校生が異世界にいるんだって？

よくぞ聞いてくれた！（泣）

俺はその日、夏休みが始まったということでのテンションが「超ハイってやつだ！！」状態になっていた。

とりあえず友達の家に行こうと思って、近道である神社を通り抜けようとしたら……………

「ちよ…え？…ここはどこですか？」

という感じで異世界にナゼか連れてこられた。

しかも放り出された所が草原で、しかもそこで見つけた第一村人が盗賊だったから参った参った。俺が「コスプレ歌劇団の方ですよね？（笑）」と言ったら「何、訳の分からねえ事を言ってるやがる」と言いながら襲い掛かって来たからなあ。

その後、必死に逃げてたら、たまたま通りかかったナイスガイな騎士のおっさんが助けてくれた。

俺は「あなたもコスプレ歌劇団ですか？近くにコスプレ会場でもあるんですか？」と言いつうになつたが、また襲われるのは勘弁なので、「危ない所を助けていただきありがとうございます。」「とテンプレなお礼を言ってみた。

「なあゝに気にするな。当然の事をしたまでだ。それよりも、少年、どうしてこんなところほつつき歩いてたんだ？ここらへんは魔物や盗賊が多くてあまり人が寄り付かない場所なんだがな。」「

俺は、「色々と訳があつて一人旅をしなければならなくなり、旅をしていたら道に迷つてここに来てしまいました。荷物も盗賊から逃けている最中に無くしてしまいました。」と答えた。この時に財布やケータイ、自転車が何処にもないことに気付いた（汗）

「それは災難だな。……………よし！少年！もし行く当てがないのなら王都にこないか？あそこなら生きていくぶんには困らないし、自分を守るくらいには強くなれるぞ？」

もちろん行く当てなど無いので、「是非、宜しくお願いします！」と元気に答えた。

おっさんがアツハツハと高らかに笑う。そして「そういえば自己紹介がまだだったな。俺の名前はジーク。ジーク・アルフォードだ。少年の名は？」

「シズヤ。シズヤ・サイトーです。」「

そして今に至る。

そしてついに、いなかぶらぶらになることになった……

## 異世界、新たな生活

「ここが王都かあ」

そこにはゲームでしか見たことが無い城下町が広がっていた。さらに目線を少し上にやると立派な城が見える。

「どうだ、王都イザグリースは？ここは5つの大陸の中でも一番治安が良いからな。他の大陸からも様々な人が集まっているぞ。」

俺は、色々と聞きたかったが怪しまれるのはまずいので「へ、へえ」。そうなんですか（汗）」と、誤魔化した。

「ほら、あそこが俺の家だ。」とジークがかなり大きい屋敷を指して言った。

うそ……だろ？なんであんなバカデカイ屋敷に住んでいるんだ？まさか上流階級の騎士なのか？でも話した感じ、そんな風には思わなかったけどなあ……。

そんな風に俺が？マークを撒き散らしていると

「ハハツ、すまんすまん。あそこは騎士の合同宿舎なんだ。まさかそんなに考えこむとは思わなかったぞ。」

なるほど。と俺は頷いた。

屋敷の中に入ると受付のようところで、綺麗なお姉さんが帳簿に何か書いていた。

「あら、ジークさんお帰りなさい。」

「ただいま、ルー。急で悪いが、こいつを空いてる部屋に案内してくれないか？」

ルーは「あらあら」、「言ったあと 落ち着いた様子で「君の名前は？」と俺に尋ねてきた。

「シズヤです。宜しくお願いします。」俺がそう答えると嬉しそうに頷いて部屋に案内してくれた。

部屋に着くまでに俺は少し気になった事を聞いてみる。「ルーさん：でしたっけ？ジークさんが突然、人を連れてくることってよくあるんですか？」

するとルーさんは笑いながら「彼はトラブルメーカーだから。この宿舎に色々と持ち込むのが彼の趣味なの。あ、そうそう！この前なんか珍しい魔物の子どもを連れてきたからびっくりしちゃったわ。」

「魔物の子どもって？」俺が訪ねる。

「フェンリルっていう珍しい魔物の子でね、成体の見た目は大きな狼って感じなんだけどドラゴンにも引けを取らない強さをもっているわ。今はまだ子どもだから犬みたいな大きさね。可愛いけど、ジークさん以外には懐かないの。」

まあ、それなら手慣れてくるだろうなあと思っっているうちに部屋に着いた。



「ここがあなたの部屋よ。詳しいことはジークさんが教えると思うからそれまでゆっくりして行ってね」「そう言って部屋から出ていった。

……さて、これからどうしようかな。一人、俺はそんなことを考える。どうやら夢じゃないみたいだし、本当に異世界に迷いこんだみたいだ。元の世界には戻りたいけど方法が分からないからどうしようもない。まあ、運よくここまで来れたしこれを生かさない手はないよな。そうとなればまずは情報収集だな。

しばらくしてジークが部屋に入ってきた。手には小さな袋を持っている。

「シズヤ、これからどうするか決まったか？」

ジークが楽しげに質問してきた。

「とりあえず城下町を探索してみようかと思えます。」

するとジークは「そうくると思った。ホレ。」と言って手に持っていた俺に投げしてきた。

受け取った俺が、どどどどどどうしろと???となっているとジークが「手ぶらじゃ、なんもできないからな。俺からの少しばかりの餞別だ。有効に使えよ。アッハッハ」と言ってまた部屋から出ていった。

えらいドヤ顔だったな。(ドヤツ)を通り越して(ドヤア…)だったぞ…。そんなにドヤア…できるもんが入っているのかね?、と袋

の中を見て見ると………「金貨!？」

どうやら観光の餞別としてお金をくれたみたいだ。袋の中には金貨一枚、銀貨十枚、銅貨百枚が入っていた。なるほどあの「ドヤア」も領ける。後でお礼を言つとかないなあ。さてそれじゃ出かけますか!と行こうとした矢先、今後はルーさんが部屋に入ってきた手に持っているプレートの上にはシチューとパンのようなものが乗せてあった。

「あら、今からお出かけ?昼食を持ってきたんだけど………食べる?」俺は間髪入れず、「いただきます!」と元気よく返事した。そういえばこの世界に来てから何も食べていなかったのだ。美味しそうな料理を見過ぎす訳がない。それに女性のお誘いを断ったら男が廃るというもの(キリッ)「但し美人に限る」

俺がシチューにがつつくとルーさんはウフフと微笑んだ。

ここで俺は、1つの質問をした。

「ルーさん、この城下町に図書館ってありますか?」

「ええ。城の入り口の近くに王立図書館があるわ。あそこは大陸でも有数の図書館でエライ学者さん達もよく来るそうよ。」

よし!!これですまじは情報収集ができるぞ!と俺は内心大喜びした。

## 世界の理 くこの世界について

広ッ！！

王立図書館よりbyszay

………じゃなくて、こんなに広いと探したい本が見つからないか  
もしれないなあ。ヤバいなあ。

とりあえず受付で何か聞いてみるか。

受付に若い男性がいるので聞いてみることにした。

「すみません。ここに初めて訪れたんですけど、自分が読みたい本の探しかたってあります？」

「はい。でしたらあちらの機械に探したい本を入力するとすぐに見つかると思います。」

受付の人が指した場所を見ると、よく本屋に置いてある検索機があった。へ、へえ〜こっちにもあるんだ。す、凄いなあ（汗）と動揺しながら検索機に近づく。

間近で見ると、そっくり過ぎて元の世界に戻ってきたんだと錯覚してしまう。まあ、隣で本が飛び回っているからすぐ現実に引き戻されたんだけどね…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0362ba/>

---

ワールドチェンジ！

2012年1月5日01時54分発行